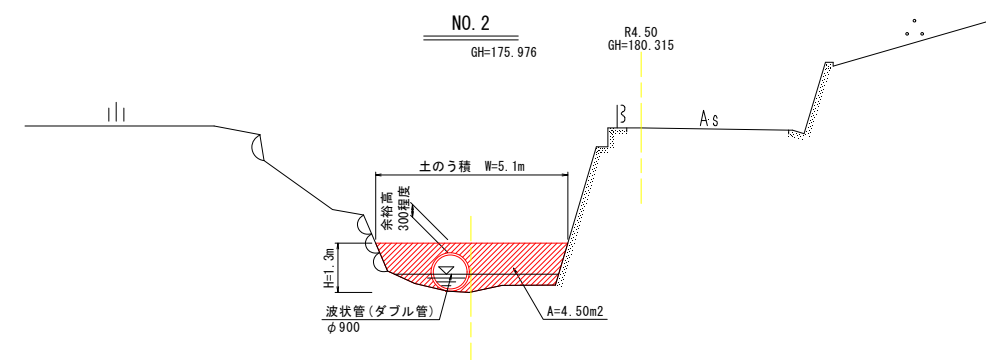
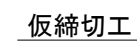
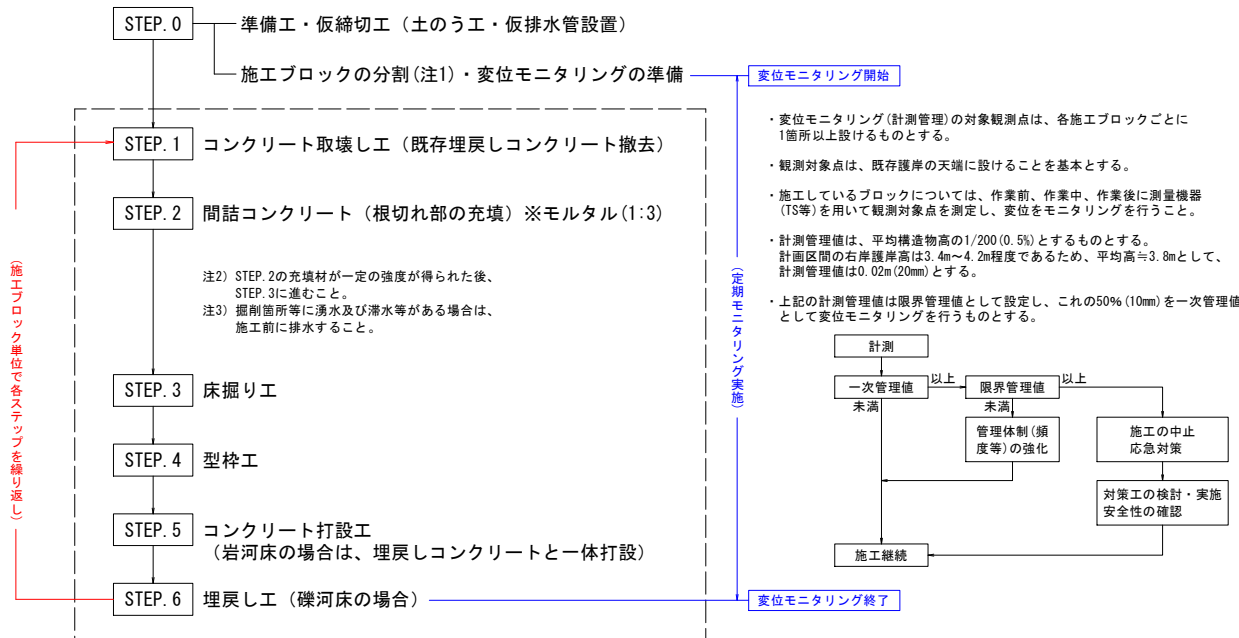


$$S=1/100$$


参考図面		
工 事 名	R 8三土 相川 三・山城相川 護岸工事	
路線名等	相川	
工事箇所	三好市山城町相川	
図 面 名	仮設図(Ⅰ工区)	
縮 尺	S=1/100	図面番号 1 / 4
会 社 名		
事業者名	徳島県三好県土整備事務所	

施工要領図（1工区）

本体作業フロー図



注2）参考資料

部材面の種類	例	コンクリートの圧縮強度（N/mm2）
厚い部材の鉛直または鉛直に近い面、傾いた上面、小さいアーチの外側	フーチングの外側	3.5
薄い部材の鉛直または鉛直に近い面、45°より急な傾きの下面、小さいアーチの内側	柱、壁、はりの側面	5.0
橋等のスラブおよびはり、45°より緩い傾きの下面	スラブ、はりの底面、アーチの内側	14.0

【出典】2023年制定 コンクリート標準示方書 施工編 P.108

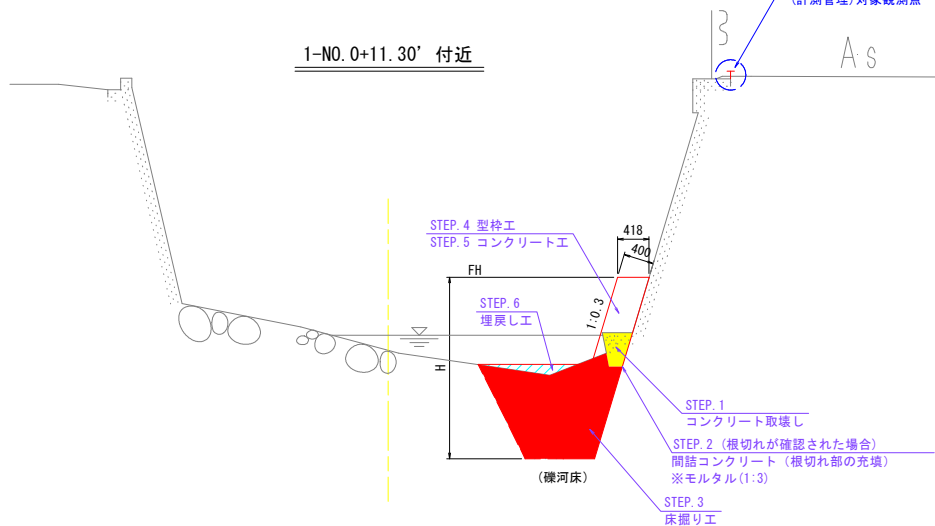
材齢による強度は、製造プラント工場の推定式を参考とするものとする。

参考として、普通ポルトランドセメント使用のレディーミクストコンクリートの参考式を示す。
 $\sigma_{28}=0.96\sigma_7+10.4$ ただし、 $\sigma_7\geq 15\text{N/mm}^2$ … 参考式(1) ここに、 σ_7 ：材齢7日強度、 σ_{28} ：材齢28日強度
【出典】中部地方整備局土木工事特記仕様書（令和8年6月改訂版）P.48 共通編 第3章 無筋・鉄筋コンクリート
目安として参考式(1)を変形すれば、 $\sigma_{28}=24\text{N/mm}^2$ を使用する場合、材齢7日強度は 14.0N/mm2を確保できると考えられる。
 $\sigma_7=(\sigma_{28}-10.4)/0.96=(24-10.4)/0.96=14.0\text{N/mm}^2$

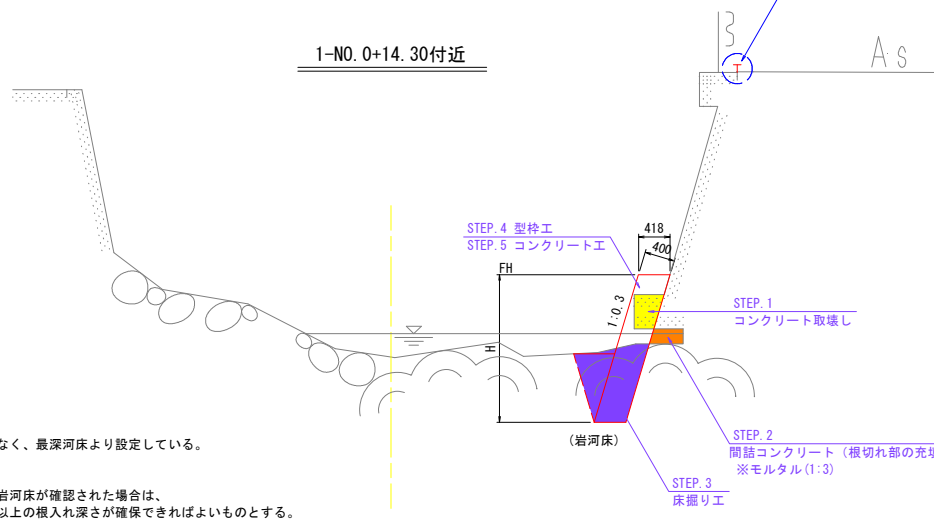
作業ステップ図

S=1/50

根入れ部が土砂（礫河床）の場合

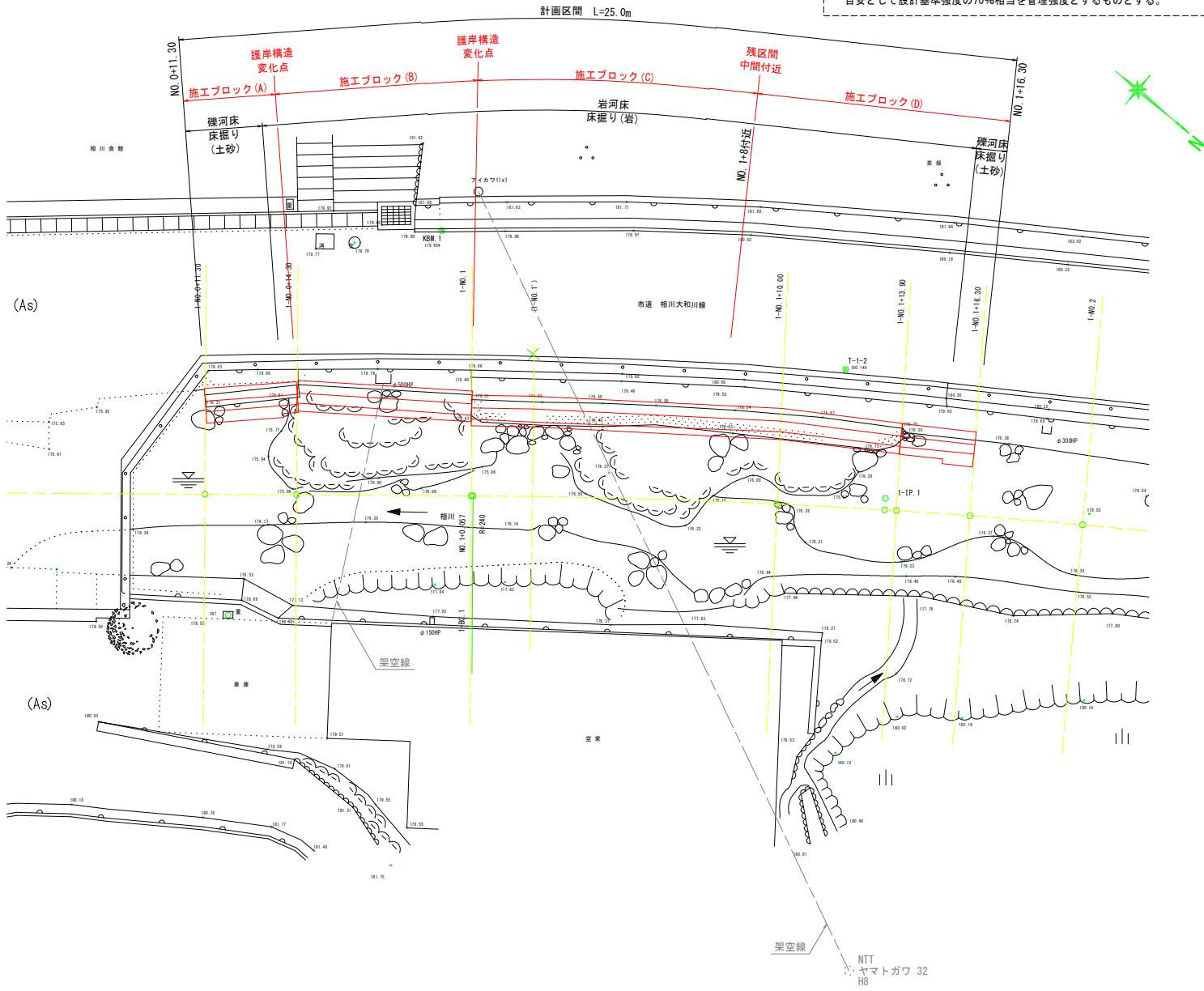


根入れ部が露岩（岩河床）の場合



ブロック割図（案）

S=1/100



注1）分割施工

- 施工はブロック割図（案）に示すように施工ブロックを分割設定し、各ブロックごとに本体作業フロー図におけるSTEP.1～STEP.6を施工すること。
- 隣接するブロックは同時施工を行わず、分割施工を徹底すること。
- 隣接ブロックの床掘りは、施工ブロックのコンクリート打設のあと、所定の強度発現を確認した後に行うこと。
目安として設計基準強度の70%相当を管理強度とするものとする。

参考図面

工事名	R8三土 相川 三・山城相川 護岸工事
路線名等	相川
工事箇所	三好市山城町相川
図面名	施工要領図（1工区）
縮尺	図示 図面番号 2 / 4
会社名	
事業者名	徳島県三好県土整備事務所

S=1/100



V=1/50 H=1/100



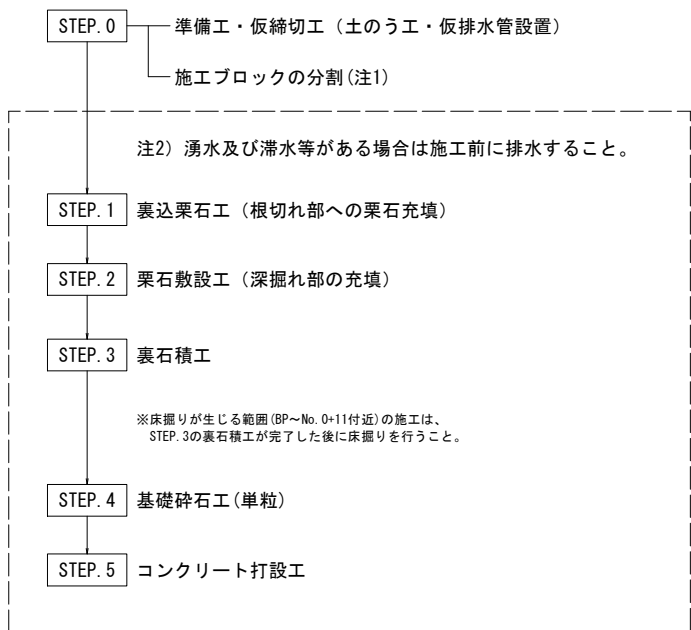
NO. 1
GH=212.546



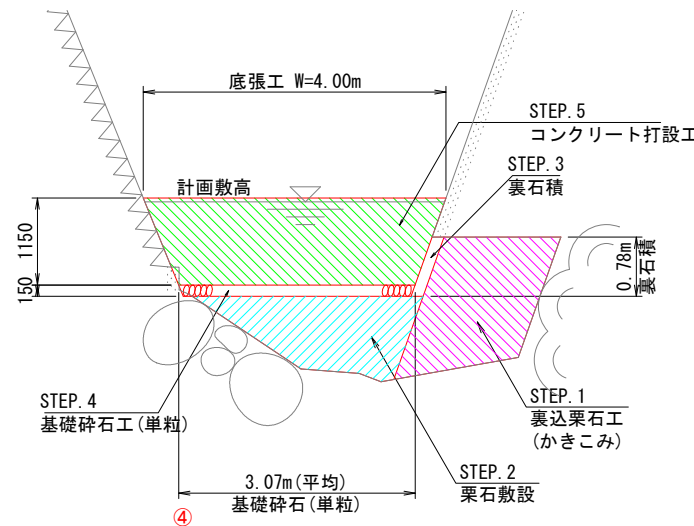
参考図面		
工 事 名	R8三土 相川 三・山城相川 護岸工事	
路線名等	相川	
工事箇所	三好市山城町相川	
図 面 名	仮設図 (2工区)	
縮 尺	図示	図面番号 3 / 4
会 社 名		
事業者名	徳島県三好県土整備事務所	

施工要領図 (2工区)

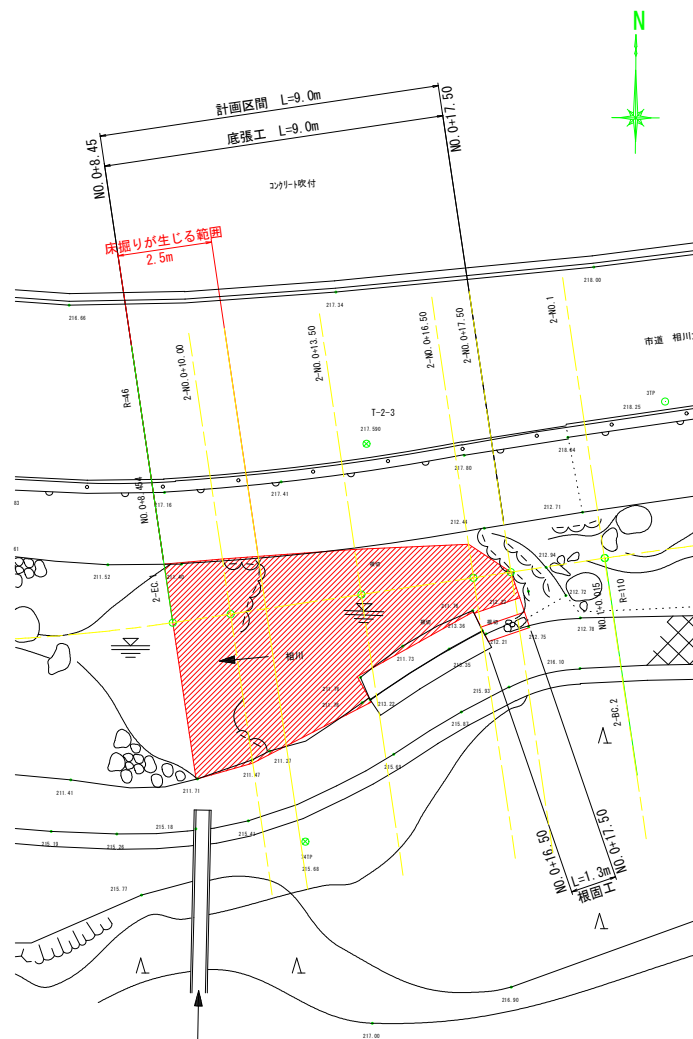
本体作業フロー図



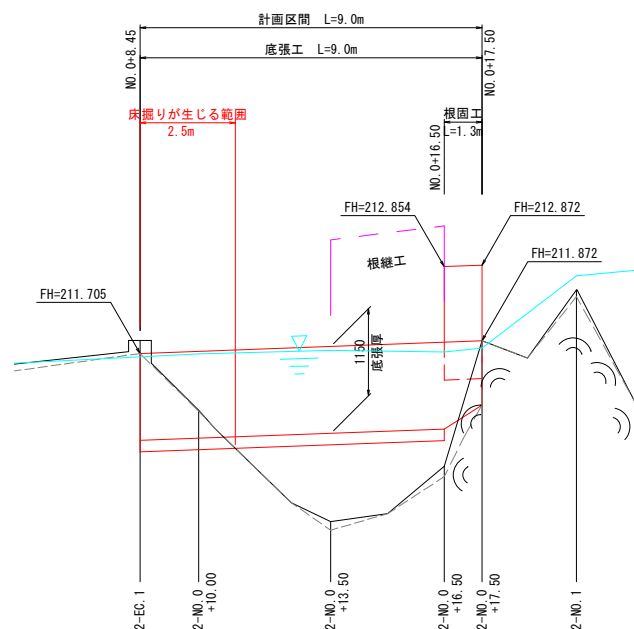
作業ステップ図



ブロック割図(案)
S=1/100



縦断面図(抜粋)
H=1/100 V=1/50



参考図面

工 事 名	R8三土 相川 三・山城相川 護岸工事		
路線名等	相川		
工事箇所	三好市山城町相川		
図 面 名	施工要領図 (2工区)		
縮 尺	図示	図面番号	4 / 4
会 社 名			
事業者名	徳島県三好県土整備事務所		